

土木を観光資源にしようⅡ（土木遺産、土木施設の観光資源化）

土木・環境しなの技術支援センター

構成

- I 土木遺産、土木施設等の観光資源化への取り組み
- II 学生（大学、高専、高校など）を対象にし、現場で行う調査・伝承活動

各論

I 土木遺産、土木施設等の観光資源化への取り組み

1 「信州の土木 魅力のマップ」の改定と活用

県内外の方に、長野県内の土木遺産、土木建造物を知って頂くため、また地元観光資源としての活用をめざして発刊している「信州の土木 魅力のマップ」の改訂に取り組んだ。初版では、作成にあたっては、県内の国機関、県建設部などに依頼し検討委員会（座長：長野国道事務所中島副所長）を設置し、意見交換した。また、土木遺産の観光活用などをテーマにした若手県職員の政策研究チームの参加も得た。完成した魅力マップは、県内の国、県市町村、建設業団体、信州大学工学部・農学部、長野高専の学生に配布し、その後も国や県の関係機関の窓口で配布をお願いし、一般配布は県を通じ、県観光協会へ依頼、県庁の観光案内所と東京の「銀座 NAGANO」などで配布している。

本年度では、マップの内容を事業の進捗による現場見学対応箇所などの追加修正を行い、マップの普及活動として、各種イベントで一般配布を行った。

（地すべり学会全国大会、中部建設フェア（名古屋）、土木学会中部支部、下水道促進デーなど）

2 ツアーの実施

「信州の土木 魅力のマップ」の作成とともに 県内各地をめぐるツアーを実現させ、その案内活動に取り組んだ。ツアーの実施には 旅行業の制約などもあるため、前年度に続き、長野市内のカルチャーセンターが行う現地講座「近代遺産化ツアー」として実現されている。 ツアーコースは、どうすればその場所を訪れることができるのか、現地でその魅力を実感できるのかとの視点で対象の土木遺産等を選定し、企画を進め、前年度とは重複しない新しい箇所を選定した。



上田市半過岩鼻を臨む（道と川の駅にて）



小諸市氷地区の蚕種保存に使われた風穴

年間企画で6回のツアーを月1回のペースでおこなうが、各コースには当センターのメンバーが2人づつ、案内人としての活動を行った。



ロックフィルの東電高瀬川ダム（大町市）



千曲川東電西大滝ダムを渡る



平成 29 年度の行き先は、別紙の通りであるが、伊那谷や木曾など遠方を含め、その地域の遺産を選定し、ジャンルでは鉄道、道路橋梁、水利、治水など多岐にわたり、各回の参加者は、中型またはマイクロバスのため、11～20 人の参加があった。

また番外ツアーとして「善光寺地震に被害地を巡る」を追加して実施した。

ツアーは平成 30 年度も継続予定で、新たなコースづくりやより魅力的な案内活動を目指している。

3 信州の土木遺産ツアー報告書の作成と配布

(1) ねらい

ツアーの内容を観光関係者、建設関係者にひろめ、土木遺産等の観光資源化を促進できるよう、今迄のツアー報告書を作成し、県内の国、県、市町村へ配布する。また、民間の観光関係者にも配布する予定です。

(2) 報告書の内容

- ・各ツアーの概要がわかるように実際のツアーのレポートとする。
- ・写真等をいれ、場所や見所が分かるようにする。発刊は 400 部とし、関係者に配布する。

(3) 報告書の 内容は次のとおりである。

- ・各ツアーの概要（レポート） 14 回分
- ・その他のツアーレポート
- ・第 36、27 回土木学会土木史研究発表 投稿論文転載など

- 他のツアーでは行けない興味津津の場所ばかり -

信州の土木遺産ツアー

地域を支える社会基盤の歴史を訪ねる旅



平成 30 年 3 月

発行 土木・環境しなの技術支援センター

4 山岳地の土木インフラ施設の観光資源化調査

1 調査の概要

調査の目的

山岳県を抱える長野県として山岳地のインフラツーリズムがそのように行われているかを実例から学び、今後活かす。

調査概要（内容は報告書に含む）

- ・平成 29 年 10 月 29 日（日）
- ・小西理事長を団長に合計 8 名が参加

なお、前日は宇奈月まで電車等でいき、前泊して出発する行程となった。

調査場所

- ・富山県黒部川の関西電力の発電所
（ツアーは出発地、最終地も宇奈月駅）



2. コースの概要

① 宇奈月から樺平：黒部峡谷鉄道

黒部第三発電所建設の人員・資材運搬路とした黒部峡谷鉄道にのって、車内から黒部溪谷の景観、土木・鉄道施設等を見ながら樺平まで

② 樺平から樺平下部駅：関西電力黒部専用軌道

樺平駅でトロッコ列車をおり、ヘルメット着用しての専用鉄道への乗り換え。樺平駅の奥（南）へ続く線路を進みトンネルへ突き進む

③ 樺平下部駅から樺平上部駅：関西電力竖坑エレベータ

④ 上部トンネル内見学、パノラマ展望台、トンネル内にある研修庫見学：徒歩

⑤ 上部トンネル→樺平上部駅→樺平下部駅→樺平（昼食）→宇奈月

上部トンネルの施設見学を終え、再びエレベータに乗って 200m を降下後、専用軌道で樺平へ。



3 ツアーレポートは報告書に記載した。

- ・普段見ることできない施設＝地下発電所などを見学でき、満足度のあるツアーであった。
- ・土木施設を観光にという気運は、増加する傾向にあるが、知識が多様なレベルにある中でどのような説明をするのか、一般観光客を対象とする場合の安全対策などが検討すべき課題と感じた。



Ⅱ 学生（大学、高専、高校など）を対象にし、現場で行う調査・伝承活動

学生（大学、高専）対象にした現場で行う授業（調査・伝承活動）

当センターが取り組んでいる学生たちを対象とした現場での授業を紹介する。

1 信州大学農学部現場授業

当センターでは信州大学農学部からの要請にもとづき、平成26年度から学生を対象にした松本市の牛伏川で現場授業を行っている。1日かけて砂防の歴史、技術を伝え、地形地質や地下水などの調査などを現場でどうおこなうかを実践的に伝える内容で、現場技術者と学生たちが交流できる貴重な機会である。

平成29年度は5月27日に実施した。

(1) 砂防の歴史などの学習

牛伏川の災害と砂防の歴史

整備を行っている地元の会の活動について

(2) 班による 見学・実線学習（3班にわたっての現場学習 各班学生 15人くらい）

- ・砂防施設の見学・・・細かい点も含めて施設の特徴を学ぶ
- ・現場調査技術・・・現場調査などを行っている技術者から 地質、地形、地下水などについて現地での視点、調査の方法、留意点を学ぶ



2 国立長野高専の測量授業

長野工業高等専門学校（以下、長野高専）環境都市工学科の3年生を対象に、一般社団法人長野県測量設計業協会と土木・環境しなの技術センターと共同で、土木遺産など土木施設の測量実習を行っている。この授業は平成25年度から開始したもので、平成29年度は11月9日に長野県大町市の上原（わっぱら）温水路を対象に実施した。

昭和21年から上原地区では水田が開墾されました。「ぬるめ」とよばれる温水路は、開墾された水田への用水の水温をあげるために造成された水路です。北アルプスを源とする冷たい水を取水しているため、水深を浅くし、少しでも温めようという昔の人々の知恵により造成された施設です。現在「ぬるめ」周辺には遊歩道や駐車場、トイレ等の整備が行われ、周囲の景観とも調和し、市民の憩いの場、散策の場となっています。今回の調査は、この温水路の形状を詳細に調査し、温水路のメカニズムに迫ろうとするもので、現地の測量や事前の水温測定などの結果も含め、報告書が作成されました。

平成30年3月には、学生たちから大町市長と管理者である大町市土地改良区へその結果が報告されます。

授業は、学校で学んだ測量技術を実際の現場で実践し、また施設の歴史やしぐみを学ぶ貴重な機会となっている。特に現場で活躍する技術者からの指導があり、技術者を目指す学生たちが技術の重要性や将来の職業選択を考える機会になっている。

